

## 母親の育児不安は嘘の認識を妨げるのか、それとも促進するのか。

児童学部 児童学科 菊野 春雄

**要旨：**本研究では、母親が自分の子どもの嘘をどのように認識するのかを検討した。特に、母親の育児不安が子どもの嘘の認識を妨げるのかどうかを明らかにしようとした。また、自分の子どもが男児であるか女児であるかによって、子どもの嘘を認識するのに差が見られるのかを検討した。その結果、育児不安によって、母親による子どもの嘘の認識を促進することが認められた。また、母親は目、口、眉毛など動的な部位を手掛かりとして、子どもの嘘を認識することが認められた。

**キーワード：**母親、心の理論、嘘、育児不安、身体部位

母親は子どもの嘘を適切に認識できるのであろうか。子ども自身が、嘘を認識できるのは、心の理論の能力が獲得される4歳ごろであることが報告されている。

また、Lewis, Stanger and Sullivan (1989) は、3歳以下の子どもに、紙で覆った玩具の動物園を見せた。実験者は別に部屋に行くので、子どもにその玩具の動物園を触ってはだめだと指示した。しかし、多くの子どもは実験者の指示を無視して、玩具の動物園を触っていた。実験者は玩具を見たかどうかを尋ねたところ、62%の子どもは玩具を見たことを否定した。この結果は、3歳以下の子どもでも嘘が可能であることを示唆している。

また、Sodian, Taylor, Harris and Perner (1991) は、ゲームで実験者を騙せるかどうかを調べたところ、4歳児でそのことは可能であることを示唆している。さらに、Chandler, Fritz and Hala (1989) は同様の実験で2歳児でも、騙すことは可能であることを示唆している。

それでは、この子どもの嘘を大人は見抜けるのであろうか。Keating and Heltman (1994) は子どもに2杯のオレンジジュースを与えた。その内1杯は不快な味のジュースであった。そこで、どちらのジュースも美味しいジュースだとアシスタントを信じ込ませるようにするように教示された。この状況をビデオで撮影し、数人の評定者にこの録画を提示した。そして、どちらのジュースが不快な味がするのかを評定させた。しかし、これを正しく評定するのは大変難しかった。

この結果は、母親が子どもの嘘を適切に認識することは難しいことであることを示唆している。

本研究では、母親が自分の子どもの嘘をどのように認識するのかを明らかにしたい。特に、母親の育児不安が子どもの嘘の認識を妨げるのかどうかを明らかにしたい。また、自分の子どもが男児であるか女児であるかによって、子どもの嘘を認識するのに差が見られるのかを明らかにしたい。

### 方法

**研究協力者：**研究協力者は、公立幼稚園の幼児の母親50名である。

**研究計画：**本研究は、 $2 \times 2 \times 5$ の3要因の計画で行った。第1の要因は育児不安であり、母親が高い育児不安を持っているか低い育児不安を持っているかであった。第2の要因は子どもの性別で、協力者の母親の子どもが男児か女児であった。第3の要因は嘘を認識する際の顔の部位であり、目、鼻、口、眉毛、耳であった。

**手続き：**母親に育児不安テストと子どもの行動認識テストを実施した。

育児不安テストでは、16項目の育児不安についての質問紙からなる項目に回答するものであった。育児不安を測定する質問項目は以下の通りであった。「子育てに関して不安感や負担感等がある」「子どもと一緒にいる時間が楽しい」「子どもといると心がなごむ」「子どもがかわいくてたまらないと思う」「子育てに失

敗するのではないかと思うことがある」「子どもに当りたくなる」「子どもの関わり方がわからない」などの項目であった。回答は、「ほとんど当てはまらない」から「よく当てはまる」の4段階の尺度を用いて回答するようになっていた。

また、子どもの行動認識テストは、子どもが嘘をついたときに顔のそれぞれの部位の変化を手掛かりにどのように認識するのかを評定する項目であった。

## 結果

### 1. 顔の部位

Fig. 1 は育児不安の高い母親と低い母親が、子どもの嘘を認識できるのかを、男児の場合と女児の場合に分けて図示したものである。

この図から、女児の場合は、母親の育児不安の高低によって、嘘の認識に差が見られないことを示している。他方、男児の場合、母親の育児不安の高低によ

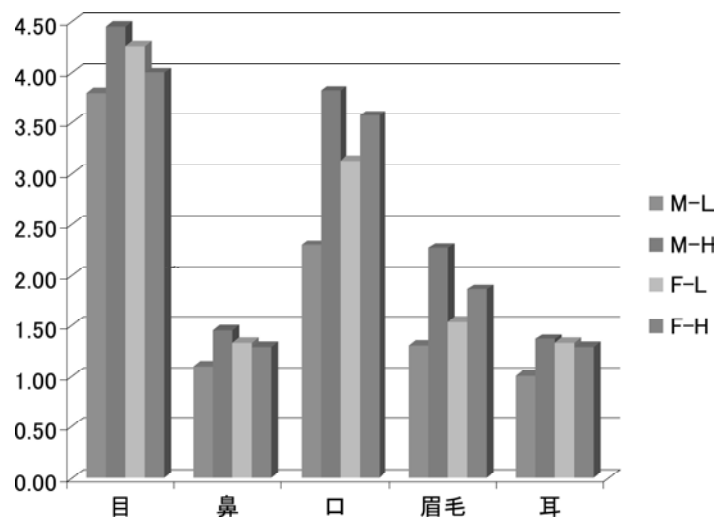


Fig. 1 各身体部位を手掛かりとした、母親による子どもの嘘の認識

M-L：子どもが男児で低育児不安の母親、M-H：子どもが男児で高育児不安の母親  
F-L：子どもが女児で低育児不安の母親、F-H：子どもが女児で高育児不安の母親

て、母親の嘘の認識に差が見られることが示された。

特に、この傾向は、口や眉毛で認められる。

そこで、2 (育児不安)×2 (子どもの性別)×5 (顔の部位) の分散分析を行った。その結果、育児不安の主効果が有意であった ( $F(1,39) = 4.27, p < .05$ )。この結果は、育児不安が嘘の認識を促進することを示している。また、顔の部位の主効果が有意であった ( $F(4,156) = 80.57, p < .001$ )。その他の主効果および交互作用は有意でなかった。

### 2. 顔の動部位と静部位

Fig. 2 は、顔を動部位と静部位に分けて示したものである。これについて2 (育児不安)×2 (子どもの性別)×2 (顔の部位) の分散分析を行った。その結果、顔の部位の主効果は有意であり、静部位よりも動部位を手がかりにして子どもの嘘を認識していることが示している ( $F(1,48) = 118.29, p < .001$ )。また、育児不安の主効果も有意であった ( $F(1,48) = 4.77, p < .05$ )。このほか、育児不安×顔部位の交互作用が10%水準までの危険率を許すなら有意であった ( $F(1,48) = 3.18, p < .10$ )。その他の主効果および交互作用は有意でなかった。

## 考察

本研究から (1) 育児不安によって、母親による子どもの嘘の認識を促進することが認められた。(2) 母親は目、口、眉毛など動的な部位を手掛かりとして、子どもの嘘を認識することが認められた。これらの結

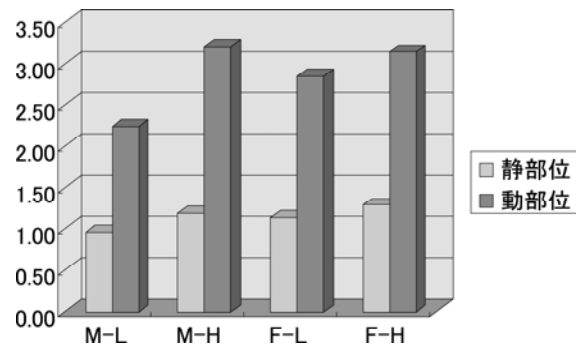


Fig. 2 静部位と動部位を手がかりとした母親による子どもの嘘の認識

果に基づいて、以下の通り考察する。

なぜ育児不安によって、母親による子どもの嘘の認識を促進することができたのであろうか。本研究では、育児不安が高いことにより、嘘の認識が妨げられると予想した。育児不安が高いことにより、子どもへの注意が集中できず、嘘についての認識が妨げられると仮定した。しかし、結果はこの予想とは逆の結果であった。

この理由として、育児不安が高いことで、子どもへの関心や注意が高くなるのかもしれない。そのため、子どもの嘘についても敏感に認識できたのかもしれない。

母親は目、口、眉毛など動的な部位を手掛かりとして、子どもの嘘を認識することが認められた。これは、目、口、眉毛などは顔の中でも動きの大きな部位である。特に、感情を示す時に、大きく変化を示す部位である。特に、子どもが嘘をついたときは、子どもは感情を示すので、嘘を認識するのに重要な部位となるのであろうと仮定される。

## 引用文献

- Chandler, M., Fritz, A.S. and Hala, S. (1989) Small-scale deceit: Deception as a marker of 2-, 3-, and 4-year-old' early theories of mind. *Child Development*, 60, 1263-1277.
- Keating, C. F. and Heltman, K. R. (1994) Dominance and deception in children and adults: Are leaders the best misleaders? *Personality and Social Psychology Bulletin*, 20, 312-321.
- Lewis, M., Stanger, C. and Sullivan, M. W. (1989) Deception in 3-year-olds. *Developmental Psychology*, 25, 439-443.
- Sodian, B., Taylor, C., Harris, P.L. and Perner, J. (1991) Early deception and the child's theory of mind: False trails and genuine markers. *Child Development*, 62, 468-483.

注：本研究は、科学研究費補助金によって行なわれた（課題番号：21530711）。

## Does Child Care Anxiety Disturb or Facilitate Mother's Cognition of Children's Deception?

Faculty of Child Sciences, Department of Child Sciences  
Haruo KIKUNO

### Abstract

The aim of this study is to examine how mothers recognize their children's deception. Especially, it was examined whether child care anxiety of mothers would impede recognition of their children's deception. The results showed that child care anxiety facilitated mother's recognition of deception. The result also indicated that mother used kinetic parts including eyes, a mouth and eyebrow as the cue of recognition of deception.

Keywords: Mother, Theory of Mind, Deception, Child Care Anxiety, Parts of Body